蓬莱の玉の枝――「竹取物語」から (3)

蓬莱の玉の枝

かぐや姫の美しさは評判となり、多くの人がかぐや姫のもとを訪れるようになりました。このなかで、いつまでも求婚をつづける五人の貴公子に対し、かぐや姫は難題を出します。貴公子の一人で、※蓬莱の玉の枝を持ってくるように言われたくらもちの皇子は、ひそかににせの玉の枝を作らせ、翁の家を訪れました。次の文章は、くらもちの皇子が語った架空の冒険談です。

これや我が求むる山ならむと思ひて、
（これこそ私が求めている山であろうと　思って、）

さすがに恐ろしくおぼえて、①山のめぐりをさしめぐらして、
（そうはいってもやはり恐ろしく思われて、山の周囲を　こぎ回らせて、）

二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしたる女、
（見て回っていると、天人の服装をしている女が、）

山の中よりいで来て、銀の金鋺を持ちて、水をくみ歩く。
（出て来て、　銀のおわんを）

これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ。
（何と申しますか。）

女、答へていはく、「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ。
（答えて言うことには、）

これを聞くに、②うれしきこと限りなし。
（うれしいことこの上ない。）

※蓬莱…蓬莱山。古代中国の伝説で、東海の中にあり仙人が住むという。かぐや姫は、この山に立っているという玉（宝玉）の実がなる木の枝を持ってくるよう求めた。

重要語句

さすがに	そうはいってもやはり
おぼゆ	思われる・感じる
いはく	言うことには

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の言葉を現代仮名遣(づか)いに直し、ひらがなで答えなさい。

よそほひ 〔　　　　〕

(2) ――線①「山のめぐりを……見歩く」とあるが、なぜ山の周囲を見て回っていたのか。適当なものを選びなさい。

ア 山がたいへん高く、美しかったから。
イ 山が恐ろしく思われたから。
ウ 山が蓬莱の山ではないと思ったから。
エ 山にいる天人の姿が見えなかったから。

〔　　〕

(3) ――線②「うれしきこと限りなし」とあるが、なぜうれしかったのか。適当なものを選びなさい。

ア 天人に会うことができたから。
イ 着いた山が探し求めていた山だったから。
ウ ようやく船から下りることができたから。

〔　　〕

(4) 次の本文中の言葉の中から、「天人のよそほひしたる女」の行動ではないものを選びなさい。

ア 山の中よりいで来て
イ 銀の金鋺を持ちて
ウ 船より下りて

〔　　〕